園だより

12月（師走（しわす））号

令和７年１１月２８日
千代田区立お茶の水幼稚園
園長　伊藤　栄司

http://www.schoolweb.ne.jp/chiyoda/ochanomizu-k

子ども劇場

園長 伊藤 栄司

急に寒くなったかと思えば、小春日和を思わせる暖かい日が続いたりするなど、例年にはない気温の変化が続いています。秋を通り越して一気に冬を迎えてしまうのだろうかと思っていましたが、子どもたちはしっかりと秋を見つけ、赤いはっぱやドングリを拾ってきては見せてくれます。景色全体が変わらないからといって、秋が来ていないのではないことを教えてもらったような気がします。

「秋きぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ 驚かれぬる」の一首を思い出しながら迎えた12月です。

劇遊び

子どもたちは何かを模したり、なり切ったりするのが大好きです。日頃の保育の中でも〇〇ごっこは誰かの発案によりすぐに始まります。幼稚園には様々な道具や素材がそろっていますので、子どもたちは遊びながら、洋服を作ったり料理に使う道具や食材をそろえたりします。話し合いの中で自分のイメージを出し合って一つの世界観を創り上げる姿は見ていてとても楽しいですし、小中学校で注目されている探究そのものだと感じます。このごっこ遊びを発展させ、より多くの人に見てもらうようにしたのが劇遊びです。

大人の感覚では、劇というと観客に見せるために舞台の上で演じるものです。一方、保育の中の「劇遊び」は、子どもたちにとって主体的な遊びであることが前提です。つまり、見てもらうために演じるのではなく、子どもが自ら考え友達と話し合い、創り表現することが目的になります。子どもたちがやりたいことを出し合い、思い切り楽しみ成長できる時間と言えます。

話し合いの結果

子どもたちは劇遊びをよりよくするために友達同士で意見を交わします。担任が話をうまく結びつけながら、イメージを共有し１つのお話を考えたり、練習中の良かったこと・良くなかったことをフィードバックしあったりします。何度も話しあったり練習したりする経験の中で、みんなと同じ目標に向かって進んでいく面白さや達成感を味わい自信が芽生えます。

時には、友達と意見がぶつかってしまったり、自分の悪かったところや苦手なことに向き合い葛藤したりすることもあります。また、子どもたちの中には人前に出ると緊張してしまう子もいますし、声が小さな子もいます。皆と協力しながら知恵を出し合い、様々な困難を乗り越えやり遂げた時にもらう拍手は格別です。一つの劇を創り上げる過程で生まれるたくさんの経験は大きな心の成長の糧となること間違いありません。

先生方も毎日が試行錯誤の連続

劇遊びの世界は奥が深くベテランの先生でも毎日、悩みながら劇を創り上げていきます。始めから台本がなかったり絵本をもとに台詞を創り上げたりするので、子どもたちの思いや考えを引き出し、一つのストーリーにまとめていく力が求められます。また、話し合いがもとになっているので原作にはない動物が登場したり、場違いな小道具が登場したりします。担任は、コーディネーターとしての役割に徹します。それでも「台詞を暗記させるだけの劇になっていないか？」「大人がアイデアを出しすぎて、子どもが考える機会を奪っていないか？」など、常に振り返りながら子ども主体の劇を創り上げていきます。 12月13日は、子どもたちと先生方が一緒に創り上げた宝物のような劇を味わい、子どもたちの思いを感じとってあげてください。どうぞお楽しみに。